

まちだ未来の会第11回学習会記録

市民が考える「公共施設再編計画」！ PART III

日時：2018年3月18日（日） 14：00～16：30

場所：町田市民フォーラム 3F 和室（1）（2）

参加者：22名

1.これまでの経緯と問題提起

「短期再編プログラム」への意見募集に向けて（菌田）

市長・市議選にあたって公開質問状を出し、回答を得た。今後も関わりをもっていきたい。市長候補は、こちらの提案に全員が賛成と回答。石阪氏は、市政を進める行政と議会の両輪がうまくいっておらず、第3の力として市民の協議会など、市民の直接参加をすすめたいと直筆で回答した。それに対して市民による市民のための再編計画を提案していきたい。

2.資料の説明（守谷）

市の意見募集がはじまる。短期プログラム（2019～2021）の資料には、まだはっきりしたことは書かれていないため、想像して読み込む必要がある。市長、市議への質問状と回答の資料もあり。

3.各テーブルで車座討論。

学校、図書館、文学館・博物館、福祉の4つのテーブルで15：05まで熱気こもる討論が行われた。

4.各グループより討論の報告

福祉

高齢者施設 ふれあい館6館について

「市に設置義務はなく、高齢者のニーズも変わってきた。60代からの高齢者の利用は2%しかなく、今後地域の活動拠点となる施設へ機能を移転する」とされているが、60代からの高齢者で、十分に通える母集団から割り出しているのか疑問。

障がい者施設

当時、先進的な施設として発足したが、現在は民間委託され、直営は1館のみ。

高齢者施設、障がい者施設とも、民間委託がすすんでいる。行政はなにをすべきか？

民間委託では、利益追求のため、谷間ができる。民間に入れたい人のサポートが必要。

施設では、職員が減っていき、質的低下が避けられない。劣化していかないように、公共サポートが必要である。このことを市民版再編計画に出していきたい。

文学館・博物館

・東京新聞3/3に、「この人にせまる」殿村みきさんの記事があった。地方のキャラクター仕掛け人と言われ、「地方活性化に必要なことは？」との問いに、「つぎつぎと新しいものを足し算していくのは、なじまない。地方がずっと積み上げてきたものを引出すこと」と答えたという。長く積み上げてきたものが大事だ。

- ・文学館

廃止は無理か？という感触になってきたようだが、今のまま（直営）は難しく、版画美術館や、構想されている工芸館とセットで民営化されるのではないか？

- ・博物館

2019年に廃止の計画が出ている。しかし、博物館は、縄文遺跡の近くだからこそできたものであり、歴史的景観を残す場所。たとえば“こども縄文博物館”として存続できるのではというアイデアもある。

通史を扱う施設がない。地域計画をしっかりしたほうがいい。たとえば、相原は、高尾山とつながる場所であり、「地域まるごと博物館」みたいな施設がほしい。

図書館

- ・税金の使い方を考える必要がある。大きな施設をつくるより、生活の場に密着した施設が有用。
- ・市として長期的な図書館計画があるのか？→長期的な計画はなく、前の5ヵ年計画では、6館ある図書館を8館にという計画だったが、今の計画では一転して8館を6館に、というものになった。
- ・分散を目指すか、集中を目指すのか。分散の例として、NYでは88の施設があり、マンハッタンという狭い場所にも40の図書館がある。町田ではせめて中学校区に1館ほしい。身近にあれば更に利用価値も大きく、学校などに分散すべき。図書館と学校と公民館との連携例として、志木市の例があり、見学を計画している。また、コンバージョン(既存建物の用途を変更し、全面改装を施して新しい建物へ再生する手法)で、建物の用途を変えるなどの方法も取って図書館数を確保する。
- ・図書館の内容の在り方については、蔵書を増やすことと同時に、近隣市とのネットワークづくり、読みたい本に導いてくれる司書の重要性、人のネットワーク化、継続的な存在が必要である。利用回数だけで本を収集するのはおかしい。選書の重要性。

学校

- ・建築は50年で建てかえが前提とされているが、大事にしていけば長寿命化は可能。
- ・小学校は、コミュニティーの基礎単位であって合区はまずい。歩ける範囲にあること。地域の景観を保つ役割を果たし、愛着も持たれている。学校区を合わせることは、大混乱を招き、教育の質の維持にはならない。少子化はむしろ、40人学級を35人、20人にする事で質の向上を図れる。
- ・学校に他施設を安易に持ち込むことなく、教育現場の質を守ること、施設の運営コストをきちんと明らかにしていくことが大事である。複合化でこどもの安全は守れるのか？震災時の避難場所、いざというときの安全確保にも学校は重要である。

5.意見交換

- 短期計画にあるものを、どう市民に周知するか？策定委員会は、5/8 14:00からおこなわれるので、できるだけたくさんの人に傍聴に来てほしい。意見募集には、でてくるものを、どうしたらいいか、考えを書いてほしい。ただ反対では市の計画を押し通されてしまうだろう。
- さるびあ図書館存続の請願の署名活動をした町内の役員会で、「説明会にいこう」と話題になった。
- 市民生活に根ざした「公共施設再編計画」の策定を求める請願は、採択され、請願項目として、「市

民との意見交換等による合意形成のための十分な機会と時間を確保すること」をあげていたはずだが、実際に市がやるのは、説明会と意見募集だけなのか？

○こちらから市に説明会を開いてくれるよう要望してはどうか？

○鶴川団地活性化取組支援の検討として、「図書館の見直し方針を策定するにあたり、市民の意見を聞く場を設ける」ということだが。

○さるびあ図書館存続の請願で各会派が紹介議員になってくれたので、たくさん傍聴に行き、聞く場を求めていくようにしたい。

6.まとめとして (菌田)

これから各論をひとつひとつ意見として出していく一方、ゲリラ的には3月22日の説明会に出席して市民への出張説明会を要求していきたい。また、4月15日の学習会にも公式に招聘したい。そこで声をあげた内容を吸い上げないなら、そのことを今後問題にしていく。各論で、文学館の民間委託がすすめられるとしたら、それにどう対応するか、さらにつめていきたい。できるだけアイデアをふくらませていこう。

6.さるびあ図書館の存続を求める請願について (手嶋)

13日(火) 7532筆提出。3月20日まで提出可能。一番大きかったのは、周辺自治会の協力で、町田一小のボランティアからは1500筆。図書館友の会からは北海道から沖縄までの全国から届けてられた。23日の市議会で審議されるが、採択されても、無視されることにたいしてどういうしかけをしていくか、考えなければならない。これは存続について2018年に決定し実行する計画なのだから。

7.次回は4月15日(日) 14:00～ 同場所にて開催。市民版計画を練る。

次々回は、5月27日(日) 14:00～ フォーラム 第2学習室にて。

4月27日は志木市の図書館見学を「町田の図書館活動をすすめる会」で企画している。参加希望の方は鈴木まで。

(記録 庄司)